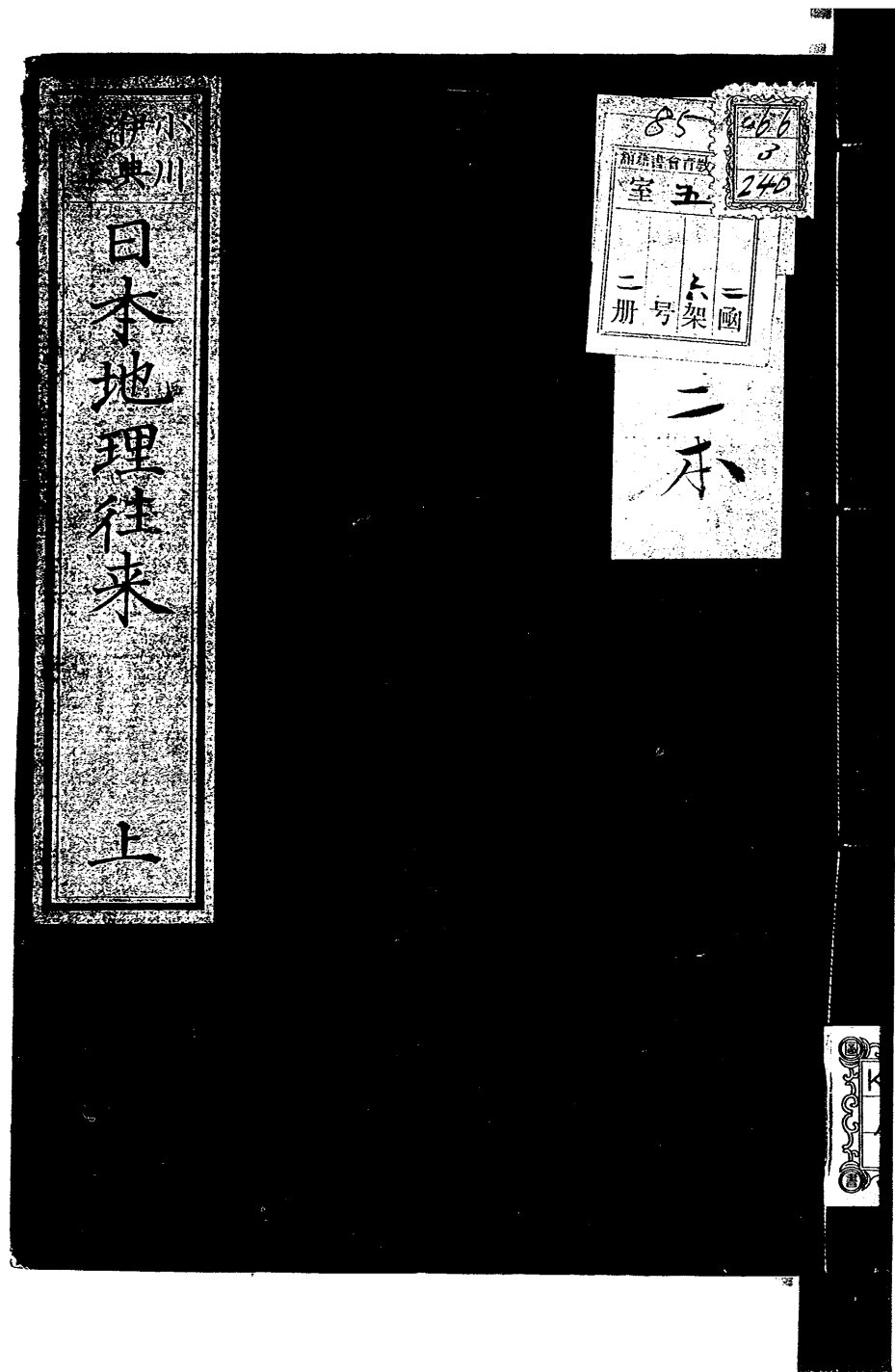




B

6

955



日本地理志序

日本地理志序

世人不知古今之同異予
校之古今事殊多矣
予何人智月之計
疎者也予入其美其
予予予予予予予予
予予予予予予予予
予予予予予予予予

都路より我學ひきりそれとを
終り五十之驛の心算書
とて又章にほをせり
訛通ふ便なりと云ふなり
此處に暗記せしむ是なり
地理の事而して今これ教
大正代の開くものなり地理より

格物系諸名家の著書も
實に充棟汗牛の多しこれ
とあるといふ高尚の教
牙の結思を著しは傳不
復なりと云ふ一鴨経鶴脚の歌
を記すは今より地理は集
と彼書と云ふなりと云ふ

玉爲是酒一便上思夢の記
於に供上書をそとせまれば
あるや一と思ふるをいかに
日けりて筆紙をふと乃に浪
華海龍学校に在勤せば睡僻
泪主人者雪を利

明治七年二月 柳田海石書

序

多田玉乃夢に通るねんまに遠き彼
土人情をいかに其山川のよきも
閑室法衣を埋むるハまに波路の方
をいかに有るふと島國の名に
たふとされをいかに彼土の地をいかに
最もあやふれ百業の巧とけり

はる文ひけき大出代先達合カ
そ論なる功ありきとわれと
そん里あつた却をさ山海の産物
土地の素風俗田畑は肥破ある縣
はるふはるぬきつとて
家の貸財を算方算ふはる我
はる地理をわその後被ふは地理

思ひてをふはる歩きの順路をれ此
地理は来りてき備の後乃て
学校を橋本をふふて活字を
その物やといふはる我の國の
おら代つはるに書市をねいの
幼童の情ふはるはるはる
とあらはるはるはるはるはる

誦^モく^ニと^ニせ^ニま^ニあ^ニら^ニく^ニこ^ニ情^モを^シ先^リ
 生^ニそ^ニれ^ニ抱^ツき^ニて^ニ就^ニき^ニて^ニむ^ニ事^ニを^シめ^ニれ^ニ
 可^ニく^ニ何^ニれ^ニけ^ニく^ニ治^キる^ニ五^ニと^ニ勢^ニを^シめ^ニれ^ニ
 之^ニは^ニ義^ニ十^ニ六^ニ夜^ニを^シめ^ニれ^ニ入^ニる^ニ事^ニを^シめ^ニれ^ニ
 乃^ニ夢^ニの^ニあ^ニる^ニ事^ニと^ニま^ニる^ニ事^ニを^シめ^ニれ^ニ

備ふ

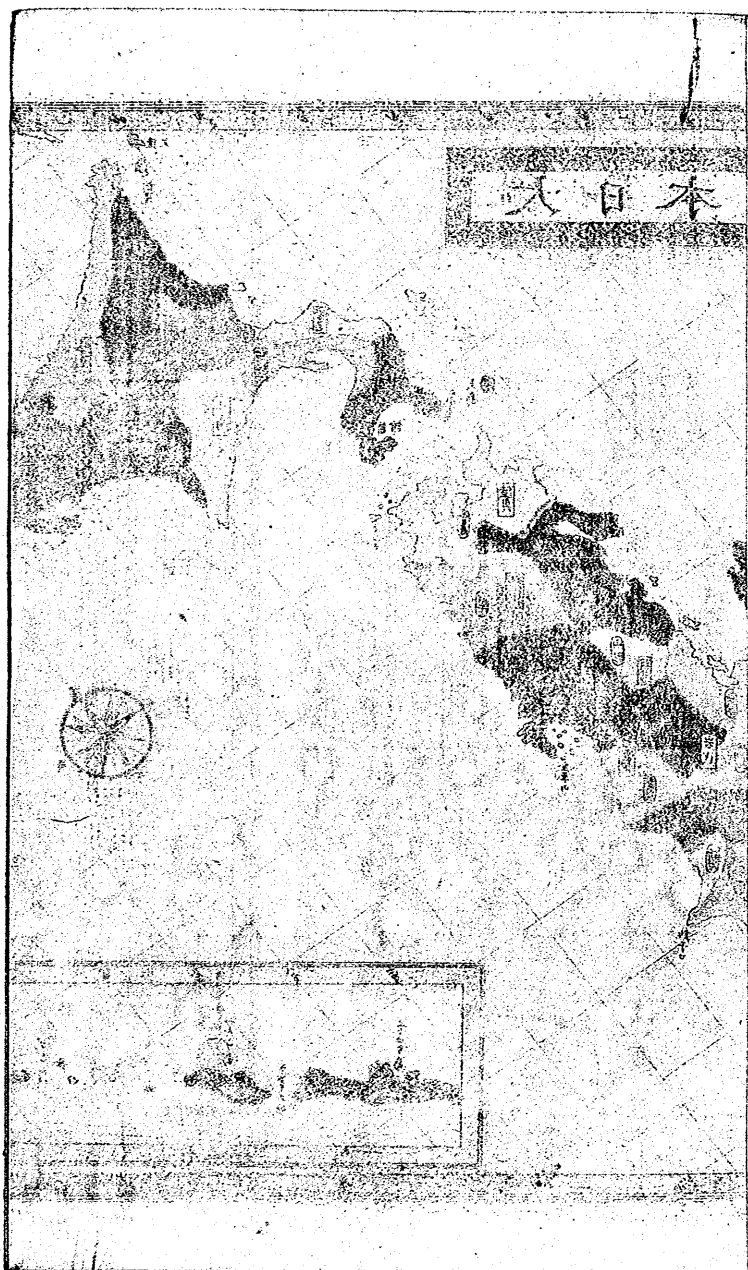
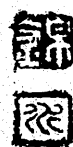
生る樹の繁まを

斯書正亦氏之所著述而行于世
 既久兵甫後諸縣中有或合併或
 新建之矣制故其所爰地形亦從而
 沿革焉是所以斯書不可不校正
 也嚮者書肆文家堂主人數請訂正
 於余之時竊係他事而不得違其

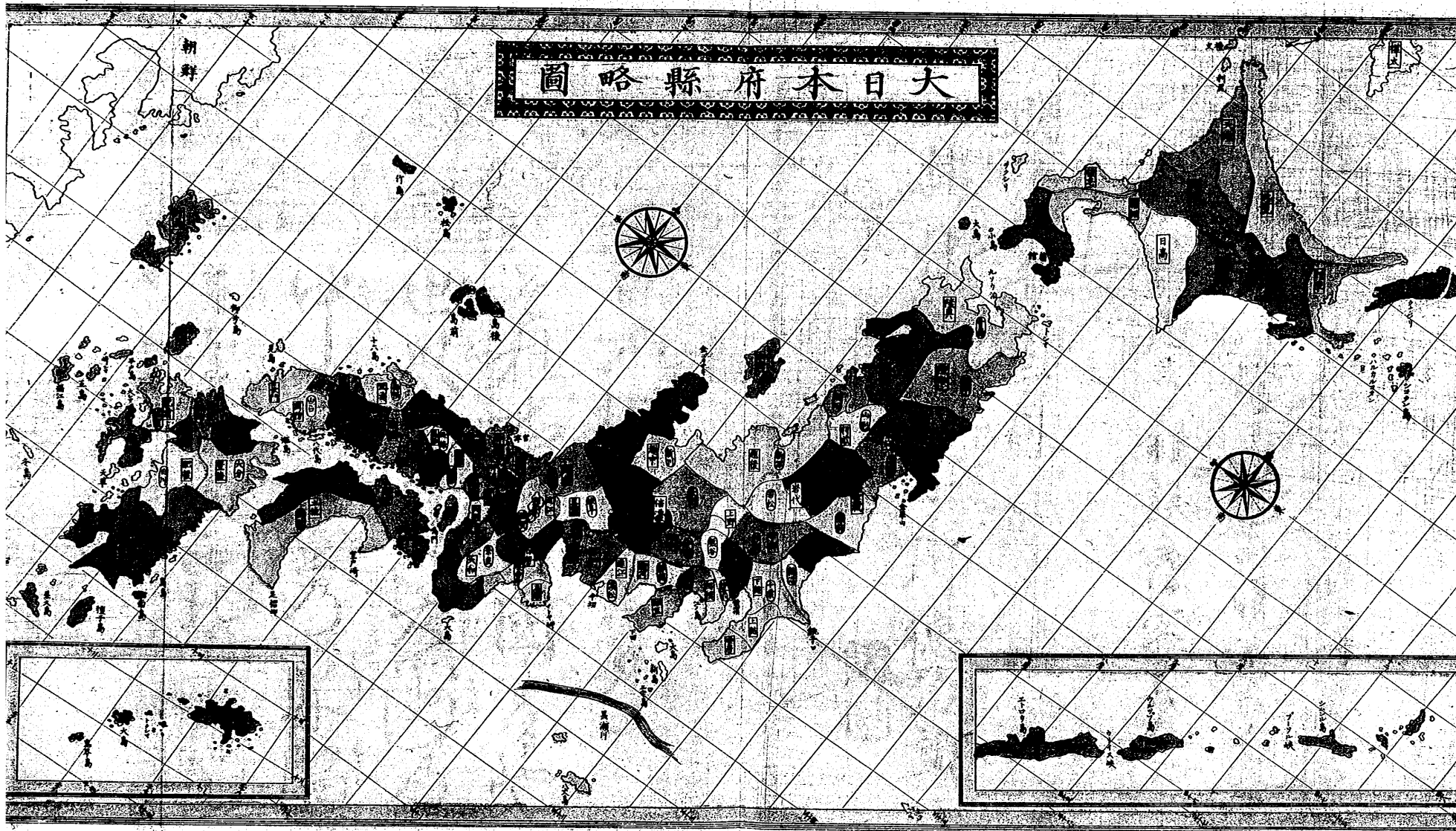
使男伊典代修焉已而脫藁余雖
一再閱之猶恐有錯誤者容其然

明治八年三月

攝津 錦水小川德治識



大日本府縣略圖





小川伊典校正
 日本地理は未卷上
 それ本朝の國なるや。
 世界五は北大海乃。
 中ニ西細立乃東隅
 ちよ海北西北ノ指立

緯線



○本朝の國名往古

ハ一字ハ書と云

或ハ三字ハ書モあ

リ則チ

倭國津國木國

泉國越國豊國

火國栗國總國

あどつと後一字

あり又

駿流河國相加模

去る一帝國西を新

鮮満洲といふ魯を立

ちお接す。土地の象を

くはるゝ。幅狭く

くはる長く。は古乃稱

を尋ねる大八洲を

建ち秋津河を第京

乃ち天皇百秋徳乃

ちと申せ代神武

天皇以降と云く大

國武藏志國上毛

野國下毛野國丹

波國但遲馬國

大養徳國凡河内

國近淡海國ふど

乃ち三字書ふ

リ

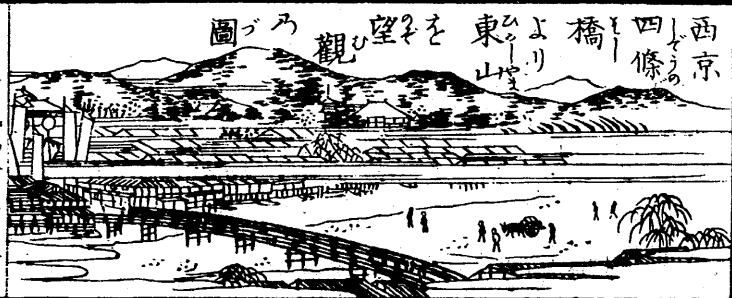
古へ國と稱し後郡

郷は華るハ

許乃國歲の内

字又内ノ二字ヲ專ヤシキ
 筆力ノ類ヲ除ンタルアリ
 葛城大徳河久努
 速原駿師長相
 知々夫藏須惠馬
 米田上海上伊甚
 武社菊麻上以總印
 波下海上以總新
 治筑波茨城仲久
 自幡田高國信田
 以上陸菊多阿尺伊
 常陸

和都より因て唱
 倭國或は日本
 倭國或は日本
 倭國或は日本
 倭國或は日本
 倭國或は日本



畿内五國を王城乃
 畿内五國を王城乃
 畿内五國を王城乃
 畿内五國を王城乃
 畿内五國を王城乃

久染羽浮田信夫
 白河石背石城上
 難須羽三國角
 鹿江沼羽咋
 雞伊弥須越久比
 岐越二方鴨明
 石橋上大伯上道
 三野備前下道加
 夜備中品治備大
 鳴都怒長門阿武

南を繞る西と海
 乃三方の陸地なり
 是日本中央なり
 第一山城名のみく山
 國は桓武帝

門熊野紀長阿久
 味小市怒麻風速
 伊豫波多佐未多
 筑宇佐前國前比
 多豊後未羅葛津
 肥前阿蘇華北天
 山城八郡
 乙訓葛野愛宕
 紀伊宇治久世

策續く王城今
 京都府と移る府廳
 山城一國と丹波三
 郡管轄する大府
 つくみく九條分れ

綴喜 相樂

人口四十二万九千九百人

廳 京都府 丹波郡

往者山背山代關木

代山関とも書を都

を葛野郡宇田村の

地は移り今の平安

京にあらる

土産 羽二重

綴子 天鵝絨 繡

其外のまゝ道るむ程

然と繁榮する方だ

ふと東山より嵐山

愛宕の麓に新ふる山

はく桂鹿の河を略

大和國 神武帝

山陵

圖



宇治大堰を津川

流はあはれまゝ濁る

此地乃名所古蹟を

其れをそへておぼ

第二大和と山國を

金襴 諸絹布織

物 白粉 陶器

漆器 鑄物 晒布

諸巧細工物 扇

子 茶 砥石 硯

石 當飯 川芎

野菜 石炭

○大和 十五郡

漆上 漆下 平郡

神武天皇平定以來。

累世建都乃土地。

山陵今當此。

奈良和銅三年。

天武天皇の治は七十

山邊 宇陀 城上

城下 十市 廣瀬

葛上 葛下 高市

恩海 宇智 吉野

人 望 又 千 言 交

廳 奈良 森 二 月

跡 大 養 徳 と 書 也

奈良 八 元 明 天 皇 十 四

代 和 銅 三 年 藤 原 の

南都の稱

佛あり人々を居る

大和一名管轄す東南

とて山嶽と号する

日本地理

都を遷一平城都と
号也

○土産 五穀 材

木 檜 細工 木綿

墨筆 油 漆 帷

子 繰綿 葛粉

索麵 煙草 合羽

萩原紙 漆漚帛

宇田紙 柿 團扇

蠶豆 地黄 當

芳野山西首城を筑

山北は初瀬古山川

昔より古河千年外の

舊記も古物金ぐ存を

ねど目録をうけ付也

河内國に邊堤

道明寺



第三河内と山多東

南和紀界を去る西山

嶽はれまど都内多

新の勝地も西北淀川

なれまを摘津界

飯 この国の名物
多一

○河内 十六郡

綿部 石川 古市

安宿 大縣 高安

河内 讚良 茂田

交野 若江 津川

志紀 丹南 丹北

八上

人口三万五千六百八十八

を分割し國の正中大和

河をたれ通し法少河を

河をたれ通し法少河を

おとむきぬ。

第四和泉の東南に山岳

古ハ大河内まゝ凡
河内とも書そ

○土産 綿 油

木綿 金剛砂 炭

香の物 楊梅

蒲萄 干瓢 蓮根

礦 白鳥子 五穀

烟草 茶

○和泉 四郡

大鳥 和泉 日根

並列しそふ山海抄に

北方塚の孫治あり和泉

河内なる國也。

一國の管轄を

第五の常攝津を是ぞ



幾肉乃乳いぬの古来の稱こらい
 注連しづめ海苔のり実乃肉の
 咽のど炭すすきなり。出船でふねなり。船長ふねのしやう
 ねく輻湊ふくそう世二乃大港おほこう
 天保てんぽうの燈とう者ものなり。商家けや

泉南

人口万九千七百七十四人

廳 堺縣 河内 一円

昔ハ泉と書ハ天平

宝字元年五月河内

を割て和泉と領

○土産 市物 鉄

炮 木綿 綿 小

豆 烟草 唐鏡

真田お紐

乃富貴なりふき新あらた一ひと西京さいけい
 乃川なりがわ蒸む半通船はんつうせん旦
 著あき経きやう百ひゃく府廳ふてい橋はし
 是こゝ都みやこ内外事務ないがいじむを
 裁さい勅しつもも陸奥りくお府ふ屬ぞく好こう

○攝津 十二郡

住吉 能勢 東成

西成 鳴上 豊島

河邊 武庫 元原

八部 有馬 鳴下

人五十三万四千四百五十八

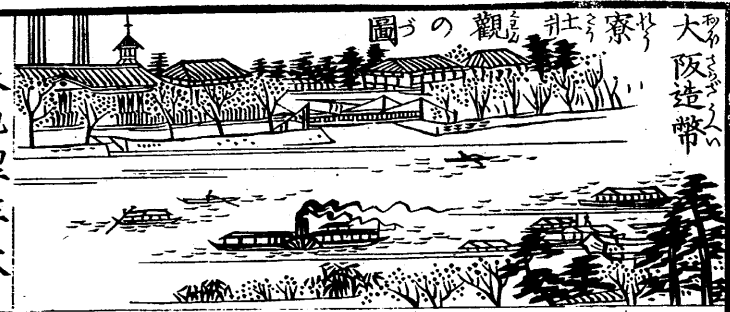
廳 大阪府 園七郡

兵庫縣 四 五郡

昔ハ津國又浪速國

とをいふ天正十一

備兵薩清の人数大
隊と幸神戸其港より
和田岬より佐田岬あり四
方北東交易最日に
江崎より如來他日



十倍と大坂府下の神戸
まで新鉄道造るまで
兵庫縣と市内の五郡を
総て管轄するのを再度
とらうと存心耶山我座山

神戶の港の圖



神戶の港は、
 東海道に十五國の國境あり。
 海をうけ、西に水と陸地
 是は道乃魁と云。

年十一月豊國大明
 神此地に創業した
 ひより海内無双
 の大港とふきり殊
 明治二年川崎の
 地に造幣寮を建置
 けられ其美觀
 たる海外諸洲も
 無數ありと云
 ○土産 酒 阪上

第一の伊賀の
 王畿東の山より
 西乃おあとお針
 恰とる耳はくろり
 第二の伊勢かき垂仁の

繚綿 池田炭 傘
 木綿 瓦 胡蘿
 菊 西臥 御影石
 素麵 銅
 ○東海道 十五國
 往古五畿七道定ま
 りど 崇神天皇人
 代十年遠荒の人未
 だ王化に慣る頃因
 て群卿の内其當職

帝以来天照皇を御と
 せり。今の内宮是也
 多し外宮は遠く受主神宮
 内外は皆難自ら成
 霊若く肅く皇國神



祇乃大祖より此度會
 々々あり。伊勢より五
 郡志摩系に伊比年
 あり。管轄す。二重の
 縣治を伊賀一圓伊勢

をエシ選シ四ヨ方ツカハ一ハ貴ハ

大意シをユ知シらユ一シめシ玉シ

ハシんシとシてシ冬シ十シ月シ四シ

道ハツ將ハツ軍ハツ京ハツ師ハツをハツ發ハツ

武タタ濟タタ川タタ別タタ東タタ海タタ一タタ赴タタ

之シ其シ後シ

景キョウ行キョウ天キョウ皇キョウ代キョウ御キョウ宇キョウ日キョウ

本ホ尊ホ尊ホもホ此ホ道ホよホり

東トウ征トウなトウ一トウたトウまトウふ

○伊イ賀カ 四イ郡カ

阿ア拜ベ山ヤマ田ダ伊イ賀ガ

名ナ張バ

人ヒト口クチ九ク万マン七シ千セン六ロク百ハク八ハチ人ニン

○伊イ勢セ 三イ郡セ

桑クハ名ナ 負イナ辨ベ 朝アサ明ケ

三ミ重ヘ 河カ曲ワ 鈴ス鹿カ

安ア藝ヤ 安ア濃ノ 壹イチ志シ

飯イヒ高タカ 多タ氣ケ 飯イヒ野ノ

度ワタ會シ

人ヒト口クチ五ゴ万マン九ク百ハク八ハチ人ニン

ハシ新シ比シ廳シ也シ於シ鹿シ部シ新シ王シ

おウ續ツとウ西シ京シ六シ振シてシ高シ山シ

とヒ東シのシ尾シ津シとシ白シふシあシをシ

中ナカのシ名シもシあシふシ伊イ勢セ海カイ

第ダイ二ニ志シ摩マとシ伊イ勢セよりシをシ

弦テンもシあシるシ海ミ岬ササよりシをシ

羽ハ湊ミナトをシ通ス行ユク此コノ名ナ所ショ乃ナラバ

於オ泊トクふシ名ナをシ高タカ丸マル的テキ矢ヤ

港ミナトのシ安ア女メ之シ倚ヨリとシ菅スガ島シマ

るシふシ一イチ燈トウ臺ダイあシまシすシ

廳

度會 伊勢一郡
三重 伊勢八郡

内宮

垂仁天皇代御宇神

託よりて大和笠
縫邑より度會の地

遷宮よりて則ち

内宮と称は是なり

外宮

雄略天皇二附御宇

第四尾張主親海北東

方北岸より北より本谷川

涌き西より海に出

比川若濃此分界より一

尾越乃川より北より新

矣岬愛智縣に在國

三河一谷並車轄と云ふ

鎮者分官ありて侍

乃其一大隊

第五之河と矢羽川を平

丹波國真名井原より當國山田の地は遷宮より今の外宮是なり

○土産 真珠 石

炭 鮑 長鰓 蝦

白粉 水銀粉

木綿 綿 推草

串柳 黒柿 陶物

茶 材木 水銀

漆物形 ソノモノカタ 火繩 ヒナハ
 管笠 スゲカサ 緞 モジ 草履 ザダリ
 鯨銅 シラウガネ

○志摩 二郡
 答志 英虞 トシシ ブコ

人口三万七千四百九十八人
 昔ハ島津國とも

○土産 銅 真珠
 テンモンドク ノシアヒ
 天門冬 慰斗鮑

河々豊河乃。これ大川也。
 三河のむく名附り。
 涯美敷と大岬尾津の
 知多もあまびと此瑞志
 摩とお討。伊良古と云

○尾張 八郡

中島 葉栗 丹羽
 カスガ アイチ チタ
 春昇 愛知 智多
 カイトウ タイサイ
 海東 海西

人口五万七千四百九十八人
 廳 愛知 尾七郡

○土産 陶器 真
 珠 木綿絞 干瓢
 モメンシボリ カヒヨウ
 大根 白木 檜
 ダイコン ビヤクシツ ヒキ
 榎 諸材木
 サク シヨザイモク

其第六と遠江。西北秋葉
 白嶽。大日主命。古者嶺白
 光高。呼列。て天龍川を
 全國。る秀。仍。在。大井河。

○三河 八郡

碧海 賀茂 額田

幡豆 實飲 設樂

八名 渥美

人口 萬三千九百八

○土産 名倉砥

雲母紙 白魚 碁

石

○遠江 十二郡

濱名 敷智 豊田

これ駿河のふ界なり。

濱相おも其國をわらふ

管領いそをわたり。

第七駿河の富を此峰。

せふふ、其るるふふふて

高き海面より凡一千

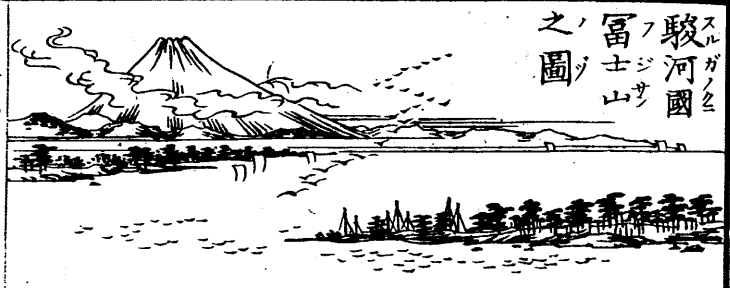
二百丈絶頂の村雪あり

てふふと隔てては

故船海に波を表とす。

林を駿河甲斐おほ三

駿河國富士山之圖



引佐 鹿王 長上
 磐田 周智 山名
 佐野 城飼 養原
 人口 万四千九百人

廳 濱松 達三円

昔ハ速淡海と云

○土産 葛布 木
 綿 琉球表 紫根
 茜根 納豆 密柑
 柑子 万年青 鷹

玉のころも遠くまで諸
 峰の山の上にある南の遠
 乃を右にたを望む
 海濱の廣くは中三保の
 松原の絶えぬきふり急

鐵 鋸 鱒 鰻

○駿河 七郡

志太 益頭 有度
 安倍 廬原 富士

駿東

人口 六万五千五百五人

廳 靜岡 駿一円

昔ハ珠流河又駿流

河とも書ゆ

○土産 茶 金

流矢の如く其静は静
 駿河の一名静は静
 第八甲斐の山乃一小
 都の富の川の源は流
 内上雅横通じて西の方

紙子 竹細工 密
 柑 盆山石 木香
 黄茂 砂金
 ○甲斐 四郡
 山梨 八代 巨麻
 都留
 人口世方。交々人
 廳 山梨 甲一円
 昔ハ歌斐とも書そ
 ○土産 紬紙

地蔵風皇駒岳の
 山脈七面山身延山
 連なり北より富士山
 相垣山下天目山
 中央なる山梨縣其

箱根湖



富士山管轄の也。
 第九番目富士山伊
 豆と駿河とお摸る南
 なる岬なり北は箱根
 乃險を度ひ中々天城の

漆シ 蠟ラウ 小梅コハナ 駒コウ

檳カキ 金キン 砒シヤ 石シ

炭タン 檳カキ 金キン 砒シヤ 石シ

○伊豆 四郡

君沢 田方 那賀

賀茂

人口 旁々 五百五十八人

往古ハ伊豆島とも

いふ南下田の港よ

ウタツ

リ卯辰十六里小大

鳴り鳴中六郷

リ此外利嶋新島

式根島神津嶋

宅嶋 御倉島

を伊豆の七嶋と云

ふ御倉島より南六

十里ふ八丈島

て七郷より其八重

の港より南百八十

丹澤山

北三柘山

丹澤山

北三柘山

丹澤山

北三柘山

丹澤山

法山系石室崎

阿孝神子元島

千里外

名

少海の利

温泉

酒

第十相模

北三柘山

丹澤山

北三柘山

丹澤山

北三柘山

里小無人島一名小

笠原嶋

○土産 酒 石

修禪寺 紙 良薑

推茸 打鮑 縮破

八丈島 細 箱根

竹 金 硫黄

○相模 九郡

豆上 豆下 淘綾

大住 愛甲 高座

出。水。沼。自。馬。入。

方。川。を。海。出。は。音。ふ

管。根。山。下。ハ

里。大。崎。の。頂。上。に。水

あ。り。猶。温。泉。ル。七。ふ。ま。り

横。濱。が。大。津。の。造。り。茶

と。を。お。ろ。孔。無。九。軍

艦。商。船。と。利。に。造。り。せ

と。寄。り。觀。音。崎。の。や。初

寄。城。の。や。れ。火。を。い。

鎌倉三浦津井

人。世。五。万。六。千。百。廿。八

廳 豆柄 豆相 豆一 豆四

昔ハ相加模或ハ相

武とも書く往古ハ

足柄の山道たり

小延暦二十一年籍

根小道を開く今の

東海道是なり

○土産 紅花 庭

石 鯉魚 大根
海蝦 江豚 海雀

蕨大根 紫胡

○武藏 三郡

久良 都筑 多磨

橘樹 荏原 豊島

足立 新座 入間

高麗 比企 横見

埼玉 大里 男衾

幡羅 榛澤 那賀

何れも白く光る。鎌

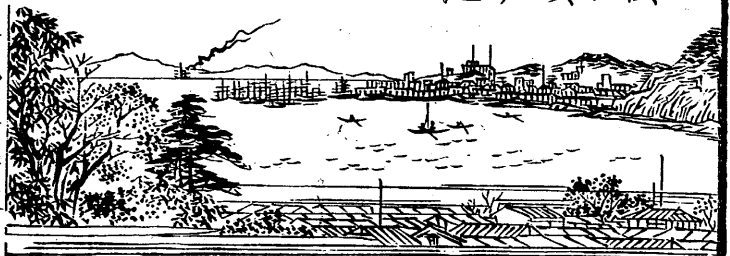
倉古霧北府江と山

海名勝地多し。足柄

伊豆一園お控り

管轄

横濱港



第十一乃武蔵とて東

京府より四里四方尾

列々大都會。此類

なるおと京とは来人乃

肩より合車とよむ。教

兒玉。賀美。秩父。
葛飾。

合見。五王。三王。人。

古ハ。武刺。無邪。志。マ。

武藏。志。とも。書。以。當。

國。もと。東。山。道。の。部。

あり。一。残。

光。仁。天。皇。九。代。寶。龜。

二。年。十。月。改。て。東。海。

道。一。属。を。

移。り。ま。さ。る。被。る。幕。れ。ど。

揮。り。汗。を。面。を。ふ。す。と。は。

府。内。や。限。り。并。

地。を。下。総。接。り。て。平。沙。

渺。々。西。北。より。東。々。坂。東。を。

東京

明治元。戊。辰。十。月。十。

三。日。鳳。章。着。御。

あら。せ。れ。れ。萬。機。

御。親。裁。の。皇。居。た。り。

依。て。東。京。と。称。を。

大。政。九。省。諸。寮。學。

校。其。外。府。内。の。事。

を。委。人。の。よ。く。知。

る。や。と。思。ふ。れ。を。

即。河。上。野。と。細。江。界。を。

甘。樂。川。の。下。流。を。り。な。れ。

中。河。利。根。川。と。り。て。す。

角。田。川。と。流。出。つ。甲。斐。

丹。波。川。ま。い。六。

安上界

廳東京府武四郡

神奈川 相三郡

埼玉 武三郡

熊谷 四郡

○土産 錦画 草

雙紙 銀 銅 甜

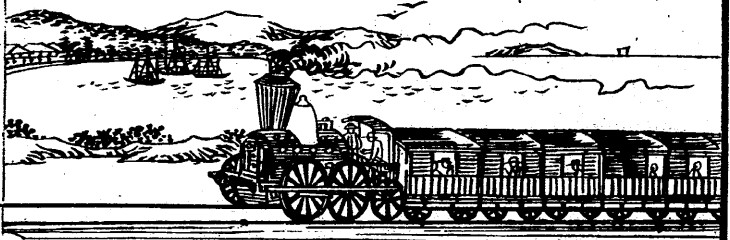
ハ 草 葱 白

石灰 素 紫 漆

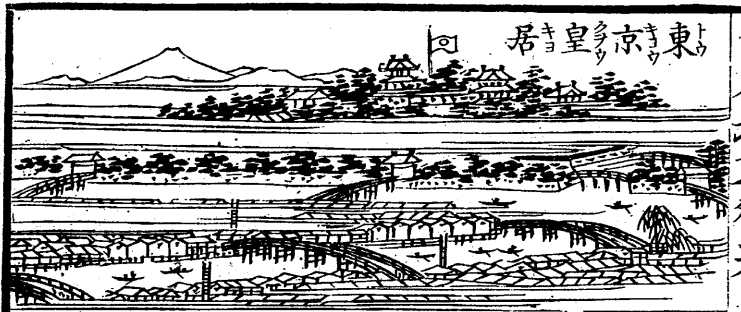
木綿 絹 髪 品

郷矢口に出る。女秩父の
 山南の佛の尾を横
 濱を神奈川の東の方
 海濱を貿易の場とす

東京横濱汽車新往の圖



一、大廊南大雲軒
 とまへ車橋鋪より天
 そびく仙境に入る地
 波心橋乃沖を浮標
 二、防まへ燈水と戒



丸まるの川の沖おきの燈とう臺だいは赤あか
 光くわう九里くわ輝やなり。羽わ粘ね田ど
 沙さの北きた海かい標ひょうも南なん方ほう東とう
 北きた里りなり。芝しば乃の口くちり横よこ
 濱はま鐵てつ道だうあり。志し
 居き皇こう京きやう東とう

川かわ苔かき 諸しよ巧くわう小こ細さい工こう
 物もの 小間物
 ○安房 四郡
 平群 安房 朝夷
 長狹
 人ひと五ご万まん四し千せん六りく百ひゃく三さん人
 昔むかし八はち淡たんと書かき
 ○土産 木綿 苔
 浪子貝 細苔
 眼黒鯉

急きふ車くるまを可い湯ゆの道
 と東京府の玉内五郡
 神かみ奈なの縣けんを武ぶ元げん二郡
 お二郡の北の山
 十三郡と上野と十一郡と示

日本地理生来

卷之七

四十四

○上總 九郡

市原 望陀 周淮

天羽 夷隅 長柄

山邊 武射 植生

人口九萬九千九百人

往古ハ總の國と云

ふ后小上総下総の

兩國ふ別片

○土産 紅花 石

鯛 鮑 蛤

磐前。碕玉縣ハ磐前

三新管轄ト府縣令ト

四廳ナリ。碕玉 皇坐乃

都ハ碕玉官署係事職

ト其の敷板舉ト其の

得ル。碕玉附屬ハ碕玉

兵ト其の敷板ト碕玉

第十二ハ安房ト碕玉

乃碕玉ト碕玉南方安房

ト碕玉ト碕玉ト碕玉

面ツつ 網ト大森金カ東ト碕玉上カ



○下總 十二郡

葛飾 千葉 印旛

匝瑳 海上 香取

埴生 相馬 獲嶋

結城 豊田

人只旁幸。荒人

廳千葉 安房一円 上総一円 下総一円

○土産 谷 紬

栗 牛房 下温 鮑

○常陸 土郡

廣大至長乃岬なり。ゆづ

味あるゆづ老る白光二十

里照るゆづ老る浮標の富

津乃西にあり。

第十四上総と諸山

花立峠清水を南流

少房はまの果如幸。

第十四下細と武蔵乃

海の袋底川と多々沼と

まねおる中と印旛沼

人只旁幸。荒人

新治 常六郡

廳 茨城 常五郡

○土産 大方紙

小萩原 植魚 鯉

石炭

常陸霞浦の圖



東に廣く沼をけき。
 千葉の船泊と安房上
 総のまはるく下細で九
 新併を各宿あり。
 第五十五番常陸なる。常を

東山道 十二ヶ國

○近江 土郡

滋賀 栗太 甲賀

野洲 蒲生 神崎

愛智 犬上 坂田

浅井 伊香 高島

人口五十七万六千五百

元禄 滋賀 江一内

古ハ淡海又道淡海
とも云ふ國中琵琶

山びのー海とて新相川の
 水源をまゝ内へ之浦を筑
 波列る山々高きづれも
 伯仲して水と船石城と接す。
 池沼多し其中最も名

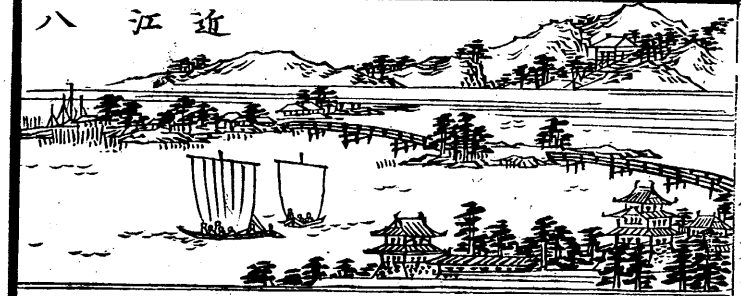
湖^コわ^リ往^{ムカシ}昔^{ムカシ}東^{トウ}海^{カイ}道^{ドウ}
 うも湖^コわ^リ下^ゲ山^{サン}城^{シヨウ}
 平^{ヘイ}安^{アン}京^{キョウ}ふ^フ近^{キン}きと^ト近^{キン}
 淡^{タン}海^{カイ}遠^{エン}きと^ト遠^{エン}淡^{タン}海^{カイ}
 と^トふ^フ二^ニふ^フぐ^グら^ラ湖^コ
 よ^ヨう^ウと^トく^ク國^{コク}名^{メイ}と^トせ^セ
 り
 ○土^ツ産^{サン} 茶^{チャ} 蠶^{カイ}糸^イ
 絹^{キヌ} 麻^マ布^フ 艾^{アイ} 艾^{アイ}
 真^マ綿^{メン} 蚊^カ帳^ヤ 木^モ綿^{メン}

う^ウた^タ氣^キ波^ハ嶺^{リョウ}れ^レ峯^{ホウ}ふ^フ落^{ラク}
 ふ^フ水^{スイ}名^{メイ}の^ノ川^{カハ}霞^{カサ}う^ウ浦^ポの^ノ春^{ハル}
 景^{ケイ}と^ト其^{ソノ}傍^{ホウ}と^ト並^{ナミ}ま^マ上^{ジョウ}彩^{サイ}
 江^{カハ}新^{シン}下^ゲ理^リで^デ都^ト府^フ後^ゴに^ニ
 六^{ロク}郡^{クン}あり^{アリ}茨^イ城^{シヨウ}縣^{ケン}に^ニ常^{ジョウ}陸^{リク}

稿^{コウ} 同^{ドウ}縮^{シュク} 水^{スイ}晶^{セイ}
 砥^{テイ}石^シ 硯^{イン}石^シ 石^{イシ}灰^{ハイ}
 辛^{カン}灰^{ハイ} 磁^ジ器^キ 燈^{トウ}
 心^{シン} 蓆^シ簾^{レン} 藤^{トウ}笠^{カサ}
 同^{ドウ}行^{コウ}李^リ 管^{カン}笠^{カサ} 升^{シヨウ}
 鍋^{ナベ}釜^{カマ} 梔^シ子^コ 鳥^{トリ}子^コ
 紙^{カミ} 疊^{タミ}表^{ヒラ} 円^{エン}座^ザ
 針^{ハリ} 十^{ジュウ}露^ロ盤^{パン} 江^{カハ}魚^{イサ}
 大^{ダイ}根^{コン} 野^ヤ菜^{サイ} 山^{サン}
 艸^{ソウ} 地^ヂ骨^{コツ} 蟬^{セン} 蛻^{タリ}

東^{トウ}山^{サン}道^{ドウ} 平^{ヘイ}三^{サン}國^{コク} 本^{ホン}郡^{クン}内^{ナイ}地^チ
 北^キ方^{ホウ}を^ヲ嶺^{リョウ}嶺^{リョウ}險^{ケン}阻^ソを^ヲ乃^ノ
 末^{マツ}の^ノ東^{トウ}北^キは^ハ海^{カイ}多^タク
 其^{ソノ}第^{ダイ}一^{イチ}に^ニ近^{キン}江^{カハ}と^ト四^シ方^{ホウ}山^{サン}

近江八



王中央と琵琶湖をく
て渺茫と湖乃中竹生る。
西と比良より比叡山東に
美濃とお接し市も高
き伊吹山より川をく。

景の圖



清波を渡りて朝ふ夕
なれ出帆る風志がくを
天智天皇の都の若草
は名も近江乃八景
を月影清き名もや霞

銀銅鑛

○美濃 廿二郡

多藝 石津 不破

安八 池田 大野

本巢 席田 厚見

各務 山縣 武藝

郡上 賀茂 可兒

土岐 惠奈 方縣

海西 葉栗 中嶋

人口六万八見士人

廳岐阜一圓

往古ハ三野と書を

○土産 厚紙 中

折紙 尺長紙 扇

地紙 絹 温石

磁器 小力 剃刀

庖丁 鉤柿 技

柿 江魚 鳥類

野菜 銀 銅 鉛

○飛彈 三郡

日本地理生果

籠をる三井ちれ入

はく鐘考るる船人

出帆引矢橋ゆる百

ふ水波は粟津乃を味て

あー乃音とそりくや

そや口とす浦と景を

を見は海とま瀬田の

力橋長くは比良乃言

相とる雪乃まぐ肌

さし浦風とる望田

美濃國の老瀧



此所を江戸と遙小
夜多淋しきるる
乃相い自れ音とれま
滋原ふ新江乃聴あり得
其全國の管轄と

大野 吉城 益田
人兄弟全言大

むろーハ斐陀も
書をこ

○土産 絲 鹽 硝

銀 銅 椹 梓

紬 搗栗 擦細

工 塗物

○信濃 十郡

伊那 諏方 筑摩

續て茅二江乃濃なる也
小内海なる平地とて木竹
河入る水源とて水脈を分て
此乃元惠奈山府の巢
杉檜山々々々お連り尾

信濃田毎の夕月



信濃の縣
 第一國の所
 第三花驛を東に
 港に
 磁黄
 嶺錫杖其六

安曇 更級 水内
 高井 埴科 小縣
 佐久

廳 筑摩 信四郡
 長野 信六郡
 昔ハ科野まの信乃
 とも書ス

○土産 生糸 絹
 麻衣 小人參

白木
 第四位
 乃境
 記

コスギハラ 小萩原 木賊 榎
 キタバコ 煙草 小梅
 シシガキ 串柿 丁蔵 蕎麥
 キヨウシ 杏仁 芍薬 銀
 イネウ 硫黄
 ○上野 十四郡
 ウスヒ 碓氷 片岡 甘樂
 タコ 多湖 緑野 那波
 クルマ 群馬 吾妻 利根
 勢多 佐佐 新田

山嶽の山脉駒ヶ岳御坊
 山嶽和田嶽太々寺倉
 白峰山沙石嶺戸隠
 水も雪ある山乃岫此山
 流出て西に向ふ木骨

ヤマタ 山田 邑樂
 人口五万七千三百五十八

往古ハ毛野の國と
 書ク即ち上毛野下
 毛野國とぞ唱へ
 ○土産 蠶糸 絹
 白茅 漆 盆山
 石 石炭
 ○下野 九郡

何ぞ南なるを就乃其
 水源主信濃の湖水結ぶ
 ふ冬は日久は春の便り
 北より流るる信濃川
 三派と成るれ新田内は

下野縣日光山圖



本縣大道多々棧
 造作。其峻險。むねとふ
 とも筑摩縣。むね一箇
 信濃の郡を治むる長
 野縣を佐阿。乃六郡之を

足利 梁田 安蘇
 都賀 寒川 河内
 芳賀 塩屋 那須
 人口四万五千五百人

廳朽木 下野三郡

○土産 金 銀

銅 日光苔 石炭

大方紙 漆 絹

牛房 笠 扇

團扇 椀折敷 硫

日本地理志

各谷。其田上。諸老谷
 常備の兵。一小隊
 第五之野。これ。山國高
 山。多。其。相。河。流。之。水
 源。北。あり。い。榛。名。山。

黄

○磐城 十四郡

白河 石川 田村

菊多 白川 磐城

磐前 摘葉 標葉

行方 宇多 刈田

伊具 巨理

人口 世男 六百人

廳 盤前 四郡

○土産 石炭 生

妙家二山為我より雄

氷嶺や赤城の國名

付く山と凡三ふつとこれ

山脈とるれど中央より

と申す城後と岩代との界

東ふあつた上野と岩代と

と申すの界よりと申す城後

と申すの界よりと申す

第六下野西南の界

と申す乳を富りて日光山

糸 真綿 紬 奉
書紙 漆 梔 驢
油 塩 臭 海 蔵

監王

○岩代 九郡

會津 大沼 耶麻

河沼 岩瀬 安達

安積 信夫 伊達

合里 万七 内 喜 天

日本地理生来

登米 牡鹿 桃生

本吉 氣仙

人口 平三万六千九百九人

廳宮城 元仙臺 陸奥九郡 陸奥四郡

○土産 金 銅

鉛 牛 馬 熊皮

蠶種 紅花 紬

紙布 仙臺平

埋木 細工 金鼠

○陸中 十郡

高山多 磐前縣磐城

下十郡を管轄す

第八岩代山國を管轄す

其中大熊布川安達

山位山終名高れ會

磐井 膽澤 江刺

和賀 柳貫 葉波

磐手 鹿角 開伊

九戸

合平万五千人

岩手 陸奥六郡

水澤 陸奥五郡

○上産 金 銀

銅 鐵 水晶 硯

津川を玉内を著る流

越後入る岩代山の麓に

沙は泉の湧き出る磐

石川を福島縣の磐城一

郡岩代を治る磐城

石 組 細 百合

甘 艸 心 太 草

紫 根 帆 立 具 鱈

銚 塩 引

○ 陸 奥 四 郡

二 戸 三 戸 北 郡

津 輕

合 要 万 三 百 人

縣 青 森 陸 奥 円

○ 土 産 銀 銅

石 炭 丹 土 舍 利

石 誠 金 石 菅 古

塩 鶴 熊 胆 鹿 皮

昆 布 若 布 牡

蠣 鮑 數 の 子

磐 城 岩 代 陸 前 陸 中

陸 奥 此 五 國 往 古

道 口 道 奥 道 尻 と も

つ ぶ 後 陸 奥 と 定

ひ 養 老 二 年 陸 奥 の

日本地理

磐城代の内に四郡を管轄す。

第九の宮に陸前と全

國山岳その中にも黒川嶺

と云ふに南方に阿武隈川

磐城代を界と云ふ海

湾廣瀬も金花の海中

の指を介して流る大島

多武田の何れも古松枝

と連ね風景をなすれ

どげにせし都都三景は第一



こを賞一氣にたす。牡丹桃
 生れ。二郡を是ぞ大押名取
 河と比ふ乃二河。三河より
 五城より。能はる。要城
 四郡。陸前。五郡。水澤。

内六郡を割て石城
 國を置き又五郡を
 割て石背國を置く
 后は兩國を停て陸
 奥一國と為て其國
 界なる最も廣城は
 一々僻遠なるゆへ
 ふ古ハ動もたれハ
 王化は背き民を苦
 一むる使たり依之

陸前五郡陸中三郡を官
 轄とて。禮者分營仙臺。小
 常備乃兵と一大隊
 第十陸中。これ。亦高山
 消境。西。東。と。連。境。は。清

養老二年始て按察
 使を置き陸羽兩國
 を監察せしむ
 鎮守府ハ
 宮城郡多賀城にて
 即ち仙臺城是其旧
 趾たり天平字の
 乙未惠美朝獨幸
 生郡の辺すを斬
 れおへて鎮守府を

乃く其の勝を盡
 せし羽後の公界あり
 最もなる岩盤山北川
 の源より少あて鹿
 角郡橘芳り陸奥実

造営して蝦夷の押
 とせしを其頃
 石碑を城門の前
 建て去蝦夷國界一
 百二十里と記して
 今の道法うて二十
 里ありいはの桃生
 郡の辺より南を日
 本乃地と北を夷
 地と定められ國司

出を形を角に似る岩子
 角を以て形之を管轄す
 第十一陸奥を是後亦
 中連なるを管轄す
 岩城の高等に置て云々

トモ クミ 本
と共ニ民を治め
茶 一フミナ
む壺の石碑名ヲ
ろー

ろー

○羽前 四郡

置賜 村山 最上
オイタミ ムラサキ モガミ
クガハ

田川

入五万九千八百

山形 国三郡

鷹置 日一郡
金沢

酒田 日一郡
羽前

津波富をいれをよ。

津波河より二万

大甲中間海灣と廣く。

それより海に望むる東の

岬を北郡。西の岬を三馬屋。

○土産 金 銀
銅 鉛 錫 温石
イロク カイロク 紅

硫黄 蠶種

花 青 胡 桃
アヲカ ムカ

酒 油 紙 鹿皮
アヲカ ムカ

○羽後 八郡

飽海 秋田 河邊
アヲカ アヲカ アヲカ

仙北 雄勝 山本
セニボク ナカチ ヤモト

平鹿 由利
ヒラカ ユリ

人口三万。世六人

外溪を連なり北水乃

限る。海を我望むるを

青森を陸奥一系松前

を管轄す。此より北を

分置あり。左のより四万隊。

陸羽
中一
郡郡

○土産
金^{キン}
砂金^{サキン}

銀 ギン
銅 ドウ
鉛 エン
硫 リウ

黄 ヲウ
石炭油 セキタンユ
生糸 キイト

マワタ
真綿
ハチウウチニマ
八丈縞

名辛
黒柿
ホシリモ
丁蔵
センマ
狗脊

草イ
漆器ヌリモノ
臭ク楨サマキ

昆布 コンブ
串鰻 クシウナギ
煎海 イリ

𧈧^コ

羽前羽後の二國ハ

第十二 羽衣うせん 小卷おくれ 羽

後^ごに^{あぐみ} 館^{どなり}海^{うみ}乃^{なり}と^{とらひ} 界^{かい}試^し全^{ぜん}属^{りく}

田河。と在河源を玉内の四方

龍清りゆうせい 其主そのしゅ 心こころ 落おち 入い
こころ おち い

酒田川 さう た が も う げん か ち あ ち あ ち



月山 羽生 酒殿 山喜比 何

世に有名を置賜給ふ

一、ソラ 魁山きせん形かたち然しかう六ろく相あひまはり前ぜん之。。

三郡くまもとを管轄す。

第十三章 羽後・奥羽

と出羽國ふり和

銅五年越后を割て

出羽を置く同年十

月陸奥のりち二郡

を分て出羽は保を

今また是をさきて

前後の兩國とそ

秋田城

齊明天皇四年越後

國司阿部比良夫蝦

高山より幸森吉駒ヶ岳

西より海山は終に

伏ふ二方河を邦内あるなく

流石くあるく至大の海山

あり。至る瀧細の峽を以て

此方道路連続を至間

海灣小なり。秋田縣に其

む。七郡とまゝ陸中で一郡

これを管轄と坂田縣を

羽前郡後一郡に之を廢也。

夷を討て阿比田秋田

津代野代津輕を平

治一各郡領を置く

而して乃ら秋田城

を置兵士を備へ陸

羽兩國の非常を守

ら一む后延暦二十

三年秋田城を停て

秋田郡と改められ

た。

7<110,26-72

日本武蔵野

卷之二

七